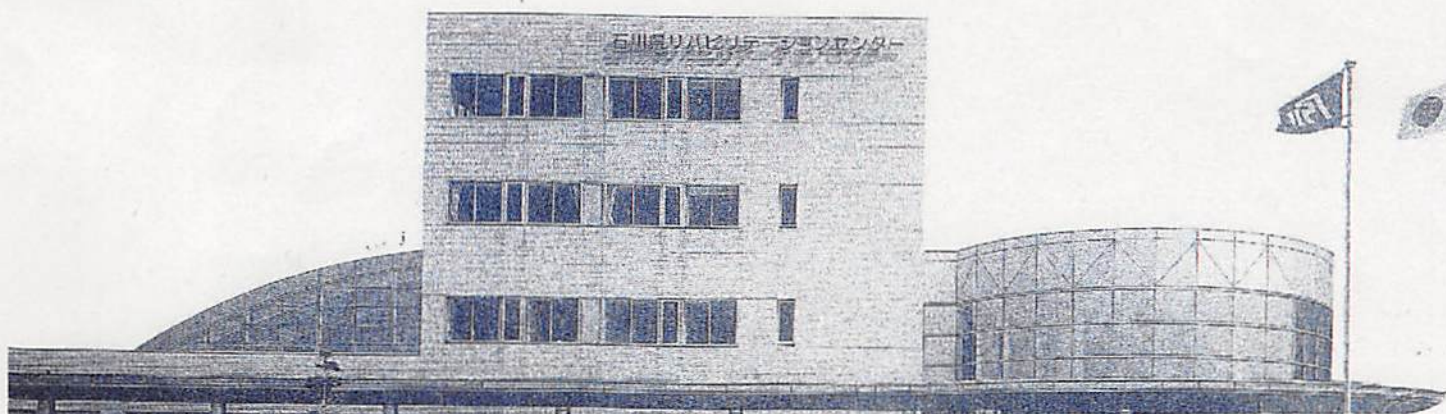


石川県リハビリテーションセンター

ISHIKAWA PREFECTURAL REHABILITATION CENTER

平成27年度事務提要



目 次

第1	施設の概要	1
第2	組織及び分掌事務	4
第3	職員数（平成27年4月1日現在）	5
第4	平成26年度の事業実績	
	Ⅰ 県地域リハビリテーション支援センター事業の状況	
	1 地域リハビリテーション推進検討会議の開催	6
	2 地域リハビリテーション支援事業	6
	3 福祉用具研修・普及事業	10
	Ⅱ バリアフリー推進工房事業の状況	
	1 福祉用具・住環境に関する相談・支援事業	14
	2 研究開発事業	15
	3 技術普及・啓発	22
	4 福祉用具の貸出	22
	Ⅲ 難病相談・支援センターの状況	
	1 難病相談	23
	2 患者交流会	23
	3 研修会	23
	4 連携会議	25
	5 患者会支援	25
	Ⅳ 高次脳機能障害相談・支援センターの状況	
	1 高次脳機能障害相談	27
	2 生活支援教室	27
	3 家族教室	27
	4 高次脳機能障害研修会	28
	5 高次脳機能障害支援関係者連絡会	29
	Ⅴ リハビリテーション技術支援ネットワーク構築事業	
	1 障害（児）者の自立に向けた支援機関連携モデル事業	30
	2 補装具の適合・供給人材スキルアップ事業	32
Ⅵ	ほっとあんしんの家利用状況	34

第1 施設の概要

1 庁舎

所在地 金沢市赤土町ニ13-1

敷地面積 7,534.62㎡

建物 鉄筋コンクリート造陸屋根4階建

延べ床面積 4,356.77㎡

1階床面積 1,864.42㎡

2階床面積 1,140.05㎡

3階床面積 676.15㎡

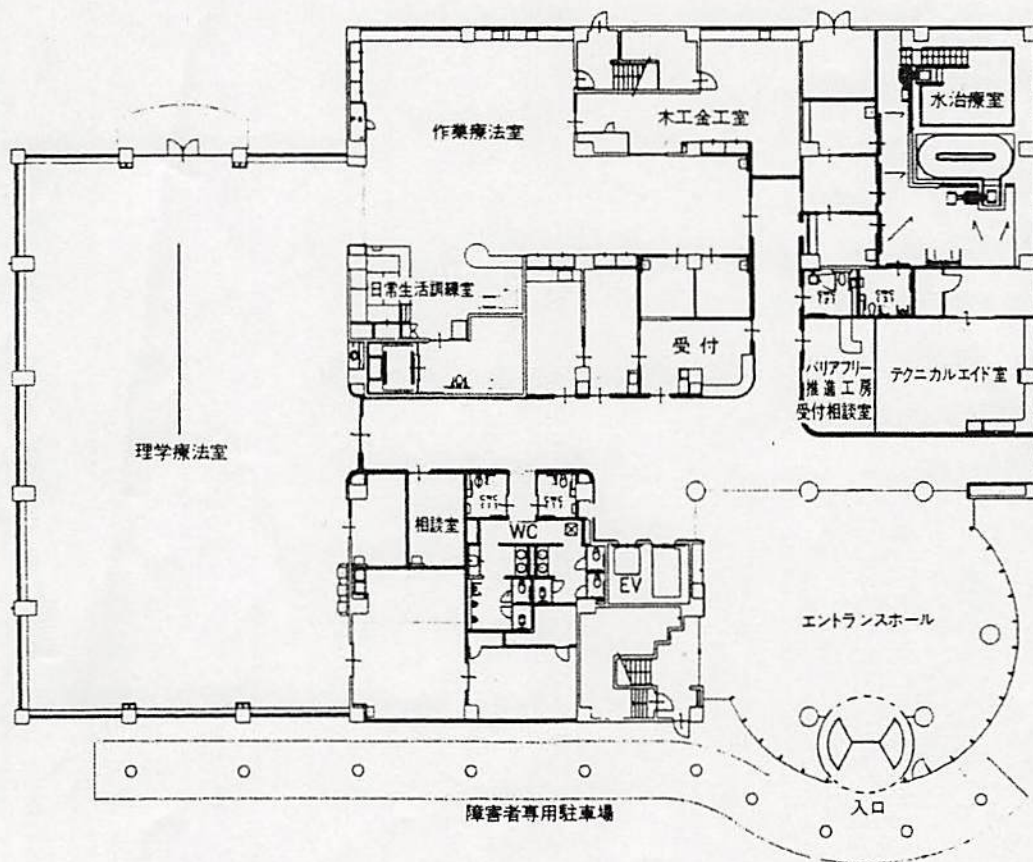
4階床面積 676.15㎡

その他 屋外訓練庭園 929.64㎡

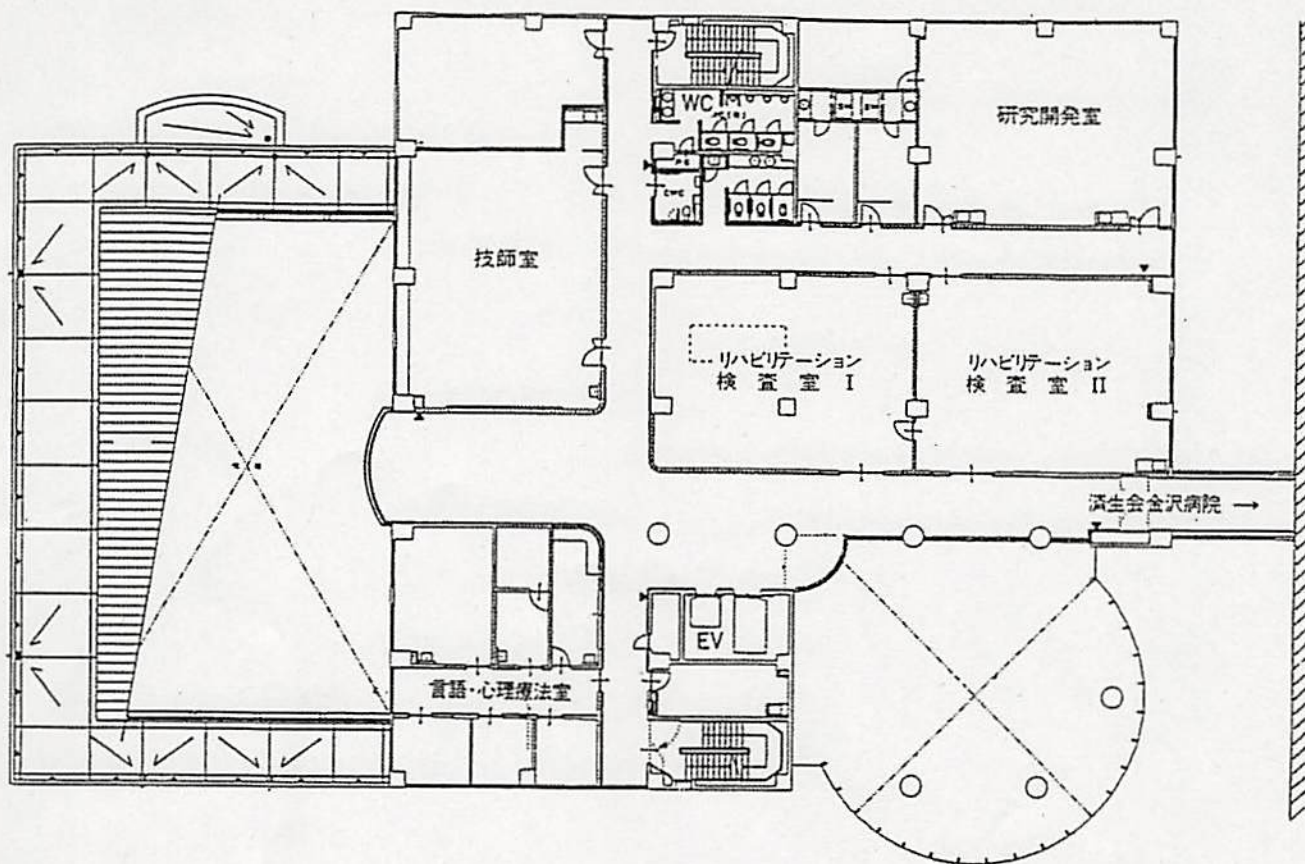
屋根付き障害者専用駐車場

プレハブ造車庫 46.75㎡

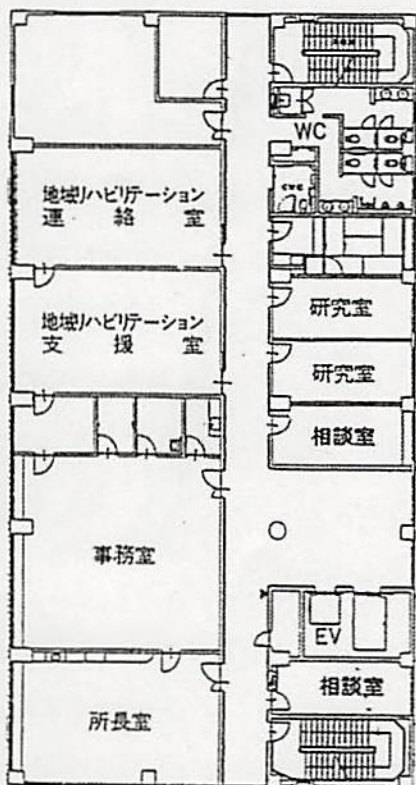
【1階平面図】



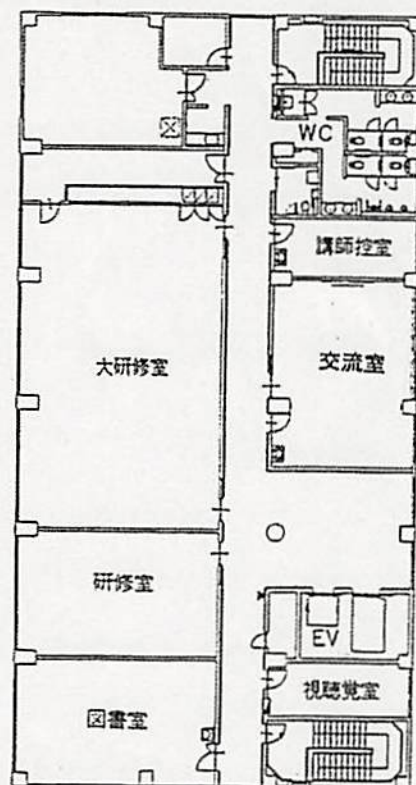
【2階平面図】



【3階平面図】



【4階平面図】



2 バリアフリー体験住宅ほっとあんしんの家

建 物 鉄骨造 2階建

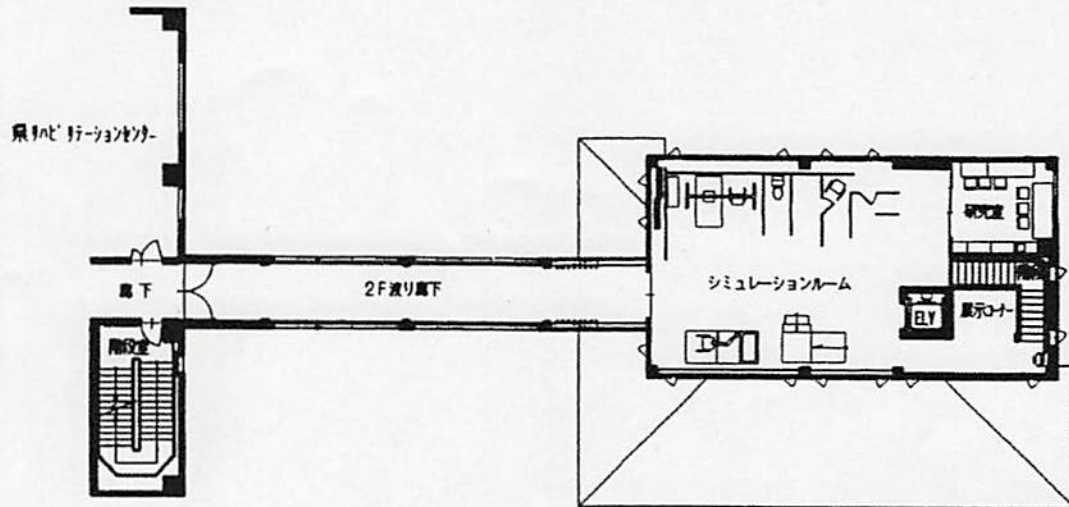
延べ面積 299.44㎡

1階 166.41㎡

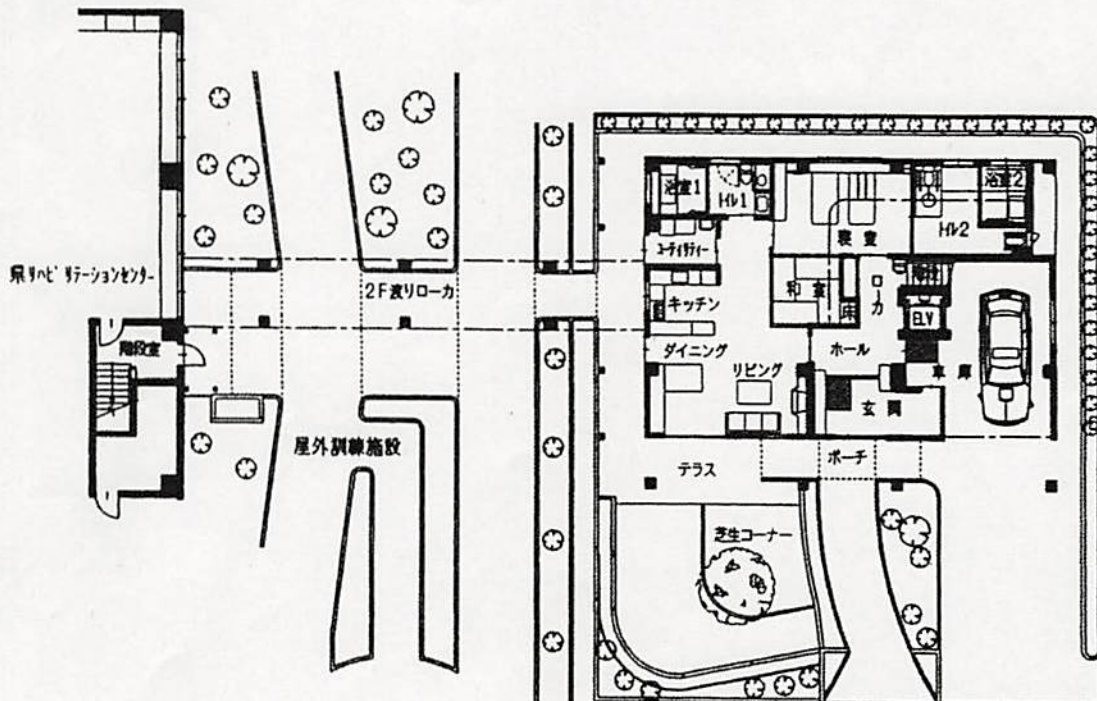
2階 133.03㎡

そ の 他 渡り廊下 47.70㎡

計 347.14㎡



2階平面配置図



1階平面配置図

第3 職員数（平成27年4月1日現在）

1 事業別配置現員調

単位：人

区分	現員	総括	庶務課	支援課	バリアフリー推進 工房	医療提供(派遣 職員)
所長	①	①				
次長・工房長	(1) 3	2			(1)	1
課長	(3)		(1)	(1)	(1)	
担当課長	1			1		
主幹	① 4		1	2	① 1	
主任研究員	①				①	
企画管理専門員	1		1			
企画専門員	4			2	2	
福祉専門員	1			1		
専門研究員	①				①	
主任技師	3			3		
技師	1			1		
嘱託職員	2			2		
臨時職員	1		1			
計	(4) ④ 21	① 2	(1) 3	(1) 12	(2) ③ 3	1

(注) () は所内における兼務職員数で内数、○は所外の兼務職員数で外数

2 職種別現員調

単位：人

区分	事務	事務 (福祉)	技 術						嘱託・ 臨時	計	
			医師	保健師	理学療法士	作業療法士	リハビリ 工学技師	その他			小計
現員	4	1	(1) 1	3	1	5	1	2	(1) 13	3	(1) 21

(注) () は派遣職員数で内数

第4 平成26年度の事業実績

I 県地域リハビリテーション支援センター事業の状況

1 地域リハビリテーション推進検討会議の開催

(1) 目的

高齢者や障害のある方々が住み慣れた地域で自立した生活を送るためには、リハビリテーションが総合的かつ一貫性をもって提供される必要がある。そこで、地域リハビリテーションサービスの相談・支援と関係機関との連携体制確立を図るため、県地域リハビリテーション推進検討会議を開催する。

(2) 会議の構成

学識経験者、医師会等職能団体、患者、障害者団体、市町等の代表者

(3) 実施状況

開催期日	主 な 議 題	出席者数
H27. 3. 20	平成 26 年度県リハビリテーションセンター事業の実施状況 平成 27 年度県リハビリテーションセンター事業の概要 その他	委員 17 人

2 地域リハビリテーション支援事業

高齢者や障害者が住み慣れたところで生き生きとした生活が送れるよう、地域の医療、保健、福祉、教育、就労に関係する機関に対して、リハビリテーション技術の支援及びリハビリテーション担当職員の人材育成のための研修を行う。

(1) 他機関への個別支援

依 頼 機 関	件数
医療機関	130 件
障害者総合支援法関連施設（障害者施設等）	139
教育機関（特別支援学校、特別支援学級等）	132
介護保険法関連施設	77
訪問リハビリテーション事業所	6
保健福祉センター	13
障害者の相談支援事業所	64
市町	73
身体障害者更生相談所	9
難病相談・支援センター	110
高次脳機能障害相談・支援センター	135
職業関連施設	0
その他	25
合 計	913

(2) 福祉施設への事業支援

支 援 内 容	件数
運動、作業、レクリエーション指導	10件
環境調整や福祉用具の支援	15
リハビリテーション関連委員会への参加	1
研修会講師	5
合 計	31

(3) 教育機関への事業支援

支 援 内 容	件数
運動、作業、レクリエーション指導	10件
環境調整や福祉用具の支援	5
連絡会の参加	2
研修会講師	4
合 計	21

(4) 市町、保健福祉センター等への事業支援

支 援 内 容	依 頼 元	件数
県障害者自立支援協議会相談支援部会	県障害保健福祉課	6件
介護予防推進支援モデル事業担当者会議	県長寿社会課	1
特別支援学校のセンター的機能充実事業連絡会議	県立七尾特別支援学校、県立小松瀬領特別支援学校	2
白山市障害者等自立支援協議会	白山市	3
能美市障害者等自立支援協議会	能美市	4
リハビリテーション技術支援ネットワーク構築事業に係る市町支援及び連絡調整会議	七尾市、かほく市、津幡町、小松市、能美市、野々市市、加賀市、輪島市、金沢市	34
パーキンソン病相談会	能登北部保健福祉センター	1
パーキンソン病についての講演会及び患者・家族交流会	能登中部保健福祉センター	1
後縦靭帯骨化症患者・家族のつどい	〃	1
パーキンソン病患者・家族のつどい	南加賀保健福祉センター	1
後縦靭帯骨化症についての講演会及び患者・家族交流会	〃	1
ほっとあんしんの家見学・福祉用具説明会	石川中央保健福祉センター	1
金沢市講演会・療養相談会「神経難病」	金沢市駅西福祉保健センター	1
平成26年度市町等身体障害者福祉事務担当者研修会	県身体障害者更生相談所	1
平成26年度バリアフリー条例に係る届出審査担当者講習会	県土木部建築住宅課	1
能登町ボランティア養成講座	能登町	1
スポーツ科学分野への理学療法支援	いしかわ総合スポーツセンター	11
介護保険における福祉用具のあり方検討会	国民保健診療施設協議会	1
合 計		72

(5) 他機関への講師派遣、その他事業支援

研修会及び講義名	依頼元	回数
臨床看護概論：リハビリテーション、理学療法、作業療法	県立看護大学	3回
リハビリテーションセンターの概要、福祉用具を用いた自立支援	金城大学理学療法学科、作業療法学科1年生	2
福祉機器講習	金沢大学理工学域機械工学類4年生	3
機能訓練指導員の実際（講義・実技指導）	県立盲学校	3
介護支援専門員実務従事者基礎研修	社会福祉法人石川県社会福祉協議会福祉総合研修センター	1
バリアフリー住宅改修講習会	県土木部建築住宅課、NPO法人バリアフリー総合研究所	4
バリアフリー北陸信越ブロック地域連絡会	国土交通省北陸信越運輸局	1
平成26年度住宅改修基礎講習	社会福祉法人金沢社会福祉協議会金沢福祉用具情報プラザ	1
医療との連携とリハビリテーション研修	公益財団法人金沢市福祉サービス公社	1
高次脳機能障害研修	独立行政法人自動車事故対策機構	1
〃	栗津神経サナトリウム	1
窓口における高齢者対応スキルアップ研修	北陸銀行泉野支店	1
働く人に学ぶ会への講師派遣	金沢市緑中学校	1
合計		23

(6) 研修会

ア 地域リハビリテーション研修会（対象：県内の医療・福祉・保健関係者等）

実施年月日	内容及び講師	会場	参加者数
H26.9.21(日) 10:00~12:00	「すべての人にリハビリが届く地域包括ケアを目指して」 講師：茨城県立健康プラザ 管理者 大田 仁史（医師）	リハビリテーションセンター	54人

イ 地域リハビリテーション実務者研修会

(対象：介護保険法・障害者自立支援法関連施設のサービス担当者等)

実施年月日	内容及び講師	会場	参加者数
H26.8.1(金) 14:00~16:00	「地域における運動機能向上の取り組み」 講師：公立羽咋病院 北谷 正浩（理学療法士）	リハビリテーションセンター	33人

実施年月日	内容及び講師	会場	参加者数
H26. 9. 5(金) 14:00～16:00	「地域における生活行為向上の取り組み」 講師：県立高松病院 塩田 繁人（作業療法士）	リハビリテーションセンター	29人
H26. 11. 7(金) 14:00～16:00	「地域における摂食嚥下障害の取り組み」 講師：金沢西病院 筒井 桜（言語聴覚士）	〃	23
合計			85

ウ リハビリテーション医療専門職研修会
(対象：県内の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士等)

実施年月日	内容及び講師	会場	参加者数
H26. 6. 21(土) 14:00～17:00	「アメリカにおける運動器疾患の外来理学療法」 講師：CPRx, Inc. (米国カリフォルニア州ロスアラトミス) 諸谷 万衣子（理学療法士）	リハビリテーションセンター	47人
H26. 8. 23(土) 14:00～16:00	「生活の向上を見据えた記憶障害へのアプローチ」 講師：社会医療法人財団慈泉会 相澤病院 脳卒中・脳神経リハセンター 並木 幸司（作業療法士）	〃	69
H26. 11. 29(土) 10:30～16:00	「起居・移乗の基本的考え方と福祉用具のプランニング」 講師：神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 医療リハビリテーション学科 作業療法学専攻 教授 古田 恒輔（作業療法士）	〃	25
H27. 2. 28(土) 14:00～16:00	「地域生活を支えるリハビリテーションの展望」 講師：石川県リハビリテーションセンター 次長 荒木 茂（理学療法士）	〃	57
H27. 3. 7(土) 13:30～15:30	「在宅での摂食嚥下障害への対応、誤嚥性肺炎の予防」 講師：国立国際医療研究センター リハビリテーション科 医長 藤谷 順子（リハ専門医）	〃	68
合計			266

エ リハビリテーション技術研修会
(対象：県内の障害者関係施設の職員 等)

実施年月日	内容及び講師	会場	参加者数
H27. 2. 6(金) 13:30～	「障害者・介助者にとって、安全・安楽な乗り降り動作 ～福祉用具を使って～」 講師：リハビリテーションセンター職員 (作業療法士)	リハビリテーションセンター	49人

3 福祉用具研修・普及事業

福祉用具や住宅改修の活用により、障害児・者の学校や職場を含めた日常生活において、自立度の高い生活の促進や介護者の負担を軽減するための支援技術の普及や意識啓発を目的とした研修等の事業を実施する。

(1) バリアフリー啓発普及事業（対象：一般県民）

実施年月日	内容及び講師	会場	参加者数
H26. 9. 28(日) 10:00～16:00	「外出を豊かに」(障害者ふれあいフェスティバル) 福祉車両相談会 外出関連機器展示 相談・説明員：リハビリテーションセンター職員	産業展示館4号館	20人 200人
合計			220人

(2) 研修会

ア 福祉用具実技研修会（対象：県内の相談支援専門員、介護支援専門員等）

実施年月日	内容及び講師	会場	参加者数
H26. 11. 19(水) 12:30～15:30	「生活の中で活用する福祉用具の考え方」 講義、実技 講師：リハビリテーションセンター職員	リハビリテーションセンター	21人

イ 補装具に関する研修会（対象：補装具取扱業者、医療機関職員、福祉施設職員等）

実施年月日	内容及び講師	会場	参加者数
H26. 6. 29(日) 14:00～16:30	平成26年度補装具研修 ①平成26年度補装具支給制度の概要について ②補装具申請の具体例 講師：県障害保健福祉課職員 県身体障害者更生相談所職員	リハビリテーションセンター	70人

ウ テクニカルエイド普及研修会（対象：特別支援学校や特別支援学級の教職員等）

実施年月日	内容及び講師	会場	参加者数
H26. 7. 28(月) 10:00～12:00	講演会 「気になるこどものできたが増える～体・手先の動き指導アラカルト」 講師：神奈川県立保健福祉大学大学院保険福祉学研究科 准教授 笹田 哲 氏（作業療法士）	いしかわ特別支援学校	279人
13:30～15:30	分科会 「乗り移り動作について～福祉用具の活用～」 講師：リハビリテーションセンター職員 （作業療法士）		37
合計			316

(3) 県内理学療法、作業療法養成校学生のための福祉用具・住環境技術実習
 (対象：県内の理学療法士、作業療法士養成校の学生等)

実施年月日	内 容	学校名、学科名、学年	参加者数
H26. 6. 2(月) 13:00～17:00	・テクニカルエイドによる生活支援 ・車いす ・住環境	金沢大学医薬保健学域保健学類 作業療法学専攻3年	24人
H26. 6. 23(月) 13:45～15:45	・移乗動作	〃 理学療法学専攻3年	24
H26. 7. 7(月) 13:45～15:45	・移動(車椅子)	〃 〃	24
H26. 7. 14(月) 13:45～15:45	・片麻痺・対麻痺のADL、住環境について	〃 〃	24
H26. 5. 23(金) 13:00～16:00	・生活場面における座位姿勢の考え方 ・テクニカルエイドによる生活支援	国際医療福祉専門学校七尾校 作業療法学科2年	22
H26. 6. 6(金) 13:00～16:00	・住環境からみる移乗・排泄・入浴動作 ・コミュニケーション	〃 〃	22
H26. 8. 4(月) 10:00～15:00	・住環境 ・福祉用具	〃 理学療法学科1年	35
H26. 8. 25(月) 10:00～12:00	・住環境 ・福祉用具	〃 〃	11
H26. 9. 8(月) 13:00～15:30	・住環境 ・福祉用具	富山医療福祉専門学校 理学療法学科1年	33
H26. 9. 25(木) 13:10～15:25	・福祉用具	金沢大学医学部保健学科 理学療法学専攻2年 作業療法学専攻2年	40
H27. 2. 23(月) 10:00～16:00	・住環境 ・福祉用具	金城大学医療健康学部 理学療法士専攻1年	71
H27. 2. 27(金) 10:00～16:00	・住環境 ・福祉用具	〃 作業療法士専攻1年	34
H27. 2. 16(月) ～ 2. 20(金) 9:00～17:00	・住環境 ・福祉用具	専門学校金沢リハビリテーション アカデミー 理学療法士専攻1年 作業療法士専攻1年	34
H27. 2. 24(火) 9:00～17:00	〃	〃 〃 〃	35
合 計			433

(4) リハビリテーションセンターでの見学実習及び体験学習

ア 医療・保健・福祉・工学関係分野の学生や団体等を対象にした体験学習

	高 校	福祉系専門 学校	大 学	企 業	その他	合 計
受入団体数	2	9	6	1	5	23
見学者数	20	208	137	3	84	452

イ 小・中学生（ジュニアコース）を対象にした体験学習

	小学校	中学校	合計
受入団体数	7	1	8
体験者数	508	176	684

ウ 高齢者疑似体験用具の貸出

	小学校	中学校	高 校	専門学校	企 業	その他	合計
貸出件数	13	8	1	11	13	13	59

(5) バリアフリー体験住宅「ほっとあんしんの家」の利用状況

高齢者や障害者が住みやすいバリアフリー体験住宅として見学者の受け入れを行うとともに、県内の医療及び福祉関係者、企業等に対して福祉用具や住宅改修に関する研究、開発、教育の場として提供し、必要な場合は外部の有識者等による技術支援を行う

区 分	内 容	利用人数		利用件数	
		25 年度	26 年度	25 年度	26 年度
研究・開発	県内企業、団体等における福祉用具、住環境、ユニバーサルデザイン製品の研究開発の場として利用	166	88	41	29
テクニカルエイド相談 福祉用具や住環境を用いた障害者への自立支援	障害者や高齢者に対して自立を促進するための福祉用具の試用・適合、住宅設計を検討する場として利用	364	594	63	139
研修教育	先端的なバリアフリー体験住宅として医療・福祉専門職や学生等の教育研修の場として利用	1617	1987	48	82
一般見学	生涯住宅としたバリアフリー住宅の提案の場として利用	429	653	84	95
合 計		2576	3322	236	345

1 福祉用具・住環境に関する相談・支援事業

(1) 医療・福祉機関等が既存技術で解決できない福祉用具や住環境等の相談・指導

実績：615件

(2) 企業に対する福祉用具、ユニバーサルデザインの相談・指導

実績：410件

(3) 行政に対する福祉用具、ユニバーサルデザインに対する相談・指導

実績：230件

■依頼元別内訳

単位：件

依頼元	TA相談	情報提供	設計開発 相談	試作製品 評価	合計
医療福祉機関等	442	57	13	5	517
教育機関等	72	16	2	0	90
企業等	18	152	198	60	428
行政・公共団体等	83	116	21	0	220
合計	615	341	234	65	1,255

※TA相談：福祉用具活用・住宅改修等によるリハ技術支援に関する相談

■用具分類別内訳

単位：件

分類	TA 相談	情報 提供	設計開 発相談	試作製 品評価	合計
03 治療訓練用具	0	7	17	0	24
06 義肢・装具	10	6	0	0	16
09 パーソナルケア関連用具（その他）	27	3	4	1	35
09 パーソナルケア関連用具（トイレ・入浴）	28	8	0	0	36
12 移動機器（その他）	6	3	4	0	13
12 移動機器（リフト）	23	7	1	0	31
12 移動機器（移乗・体位変換用具）	19	2	1	43	65
12 移動機器（視覚障害者用機器）	0	1	3	0	4
12 移動機器（自動車）	13	10	0	0	23
12 移動機器（車いす）	117	23	6	3	149
12 移動機器（杖・歩行器）	20	0	0	0	20
12 移動機器（電動車いす）	149	20	5	4	178
15 家事用具	12	44	78	3	137
18 家具・建具、建築設備（その他）	3	6	31	0	40
18 家具・建具、建築設備（ベッド）	11	0	0	0	11
18 家具・建具、建築設備（椅子、座位保持装置）	44	9	3	1	57
18 家具・建具、建築設備（住宅部品、部材）	2	1	0	0	3
18 家具・建具、建築設備（昇降装置）	3	0	0	0	3
21 コミュニケーション関連用具（入力装置）	5	10	2	0	17
21 コミュニケーション関連用具（その他）	7	2	1	0	10
21 コミュニケーション関連用具（呼びベル、緊急通報）	12	2	0	0	14

分 類	TA 相談	情報 提供	設計開 発相談	試作製 品評価	合 計
21 コミュニケーション関連用具（視・聴覚障害者 用機器）	0	2	0	0	2
21 コミュニケーション関連用具（対話用機器）	10	2	1	0	13
24 操作用具（その他）	16	3	3	0	22
24 操作用具（環境制御装置）	3	2	0	2	7
27 環境改善機器・作業用具	1	21	19	8	49
30 レクリエーション用具	0	16	0	0	16
50 都市計画	0	2	0	0	2
53 公共建築・施設	3	30	38	0	71
56 住環境	51	11	7	0	69
60 福祉用具全般	5	23	1	0	29
70 技術要素	0	17	7	0	24
90 その他	15	48	2	0	65
合 計	615	341	234	65	1,255

2 研究開発事業

リハビリテーション工学支援技術の提供で蓄積されたデータをもとに、高齢者・障害者の生活ニーズ、身体特性、支援技術などを体系的に整理し、福祉用具、住環境、ユニバーサルデザイン製品に関する自主的研究、企業や行政との共同研究開発などを行っている。

(1) 自主的研究開発

ア 生活・環境適応型車椅子の研究開発

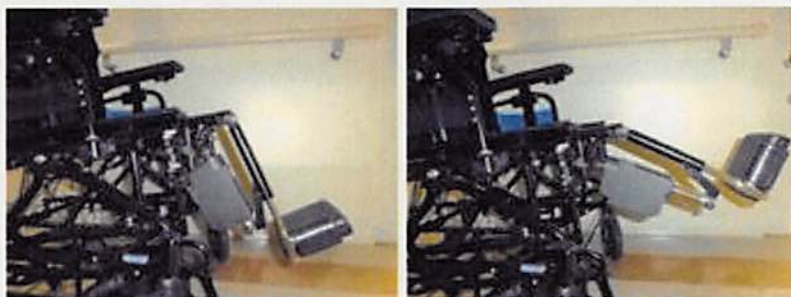
- ・軽量・コンパクトな電動リクライニング・ティルト式電動車椅子

平成25年度に試作した在宅生活で快適に利用することができる電動リクライニング・ティルト式電動車椅子について、平成26年度はこの車椅子の利用が想定される対象者の範囲や製品化につなげるための仕様を検討するため、モニター評価及び実際の生活場面での試用評価を行った。



・電動昇降式フット・レッグサポート

車椅子上での作業や休息等に応じて適切な姿勢保持を行うには、足の位置の設定も重要な要素とな、本人の力で姿勢変換を行うことが困難な方は、その足の位置を決めることができない。そこで、既製の車椅子に装着することにより足の位置（上下）を設定することを可能とする電動昇降式フット・レッグサポートを設計・試作した。



(2) 他機関との共同研究開発

ア 行政との連携による研究開発（公共施設のユニバーサルデザイン研究）

・しいのき迎賓館、歴史博物館、公共トイレ等のユニバーサルデザイン支援：県土木部

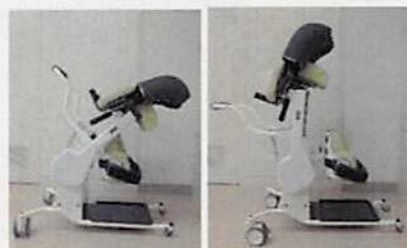
イ 企業との共同研究開発 [研究開発型企业重点指導]

・立ち上がり動作を支援する電動移乗機器の開発支援：(株)今仙技術研究所（岐阜県）

平成25年度の研究開発型企业重点指導（以下、重点指導）により、(株)今仙電機製作所（岐阜県）が開発した「立ち上がり動作を支援する電動移乗機器 i-PAL（以下、機器）」が、経済産業省の「ロボット介護機器導入実証事業」に採択され、平成26年度の重点指導で県内の医療・福祉関係5施設とともに機器導入の実証評価を行った。（図1）

具体的には、①一次調査で機器の適用対象者の明確化と改善提案、②二次調査で対象者に対する24時間の利用調査、③各施設でのリハビリテーション専門職及び介護職員の意識調査等を行い、機器導入の必要条件を整理した。

今回の導入検証では、利用者側の立場で機器が持つ機能と日常生活で必要とする対象者との適合を明確化した上で、機器導入の実証評価を行った。一次調査での改善提案により、更に多くの高齢者や障害者の有効活用が期待でき、二次調査では移乗用具等を普段から利用しているかどうかで機器導入への意識の違いがみられ、介護現場へのロボット介護機器導入には、腰痛問題の解決や介護負担軽減への意識改革の重要性が導かれた。



ロボット介護機器導入実証事業

(研究テーマ：立ち上がり動作を支援する電動移乗機器の開発)

I 検証の目的

日常生活の中で、様々な行為をするときに必要不可欠となるのが移動や移乗の動作です。一日の生活で頻回に行われるため、本人や介助する人にとって安全で負担にならない方法を選択する必要があります。中でも、力まかせの移乗介助は介助者にとって負担だけでなく、本人に与える危険性や不快感も大きいといえます。そのためにも移乗動作を介助するには、本人や介護者の能力、使用環境等を評価した上で、本人の能力を大切にしながら介護者の負担を軽減する最適な移乗方法を決めることが大切です。

しかし、実際の介護現場では、介護に費やす時間的制約、介護機器等の導入に対する抵抗感、本人と機器の不適合等の要因で、本来、本人の能力を尊重して介護負担の軽減を図ることができるはずの介護機器がうまく導入されていないことが少なくありません。

このような課題に対し、ロボット介護機器「i-PAL」(以下：機器)を介護現場に速やかに導入していくために、一次調査として機器を必要とする対象者の身体特性を明確にした上で、より多くの人に受け入れられるよう改善提案を行い、二次調査として現状の機器が適用可能な対象者に対して介護現場で24時間の利用調査を実施するとともに各施設における介護職員の機器に対する意識調査を行うことで、機器導入の必要条件を整理することを目指しました。

II 検証の概要

ロボット介護機器導入検証の実施場所については、高齢者・障害者及び在宅・施設を問わず機器導入の必要性や可能性を探るとともに、機器を必要とする対象者を抽出する一次調査を適切に行うために、複数の理学療法士、作業療法士(以下、リハ専門職)が常勤する施設を基本条件に、同じようなタイプの施設が重複しないよう、デイケア併設型(F施設)、精神科認知症分野(KN施設)、老人分野(N施設)の各介護老人保健施設(以下、老健)、障害者施設(K施設)、訪問看護ステーション(S事業所)の計5事業所としました。

仲介者は、これらの事業所を訪問し、各施設のリハ専門職と介護職員に機器の使い方や検証方法に関する説明会を実施しました(図1)。

なお、約6ヶ月間の検証中にリハ専門職を集めた5回のプロジェクト会議を行いました。

1. 一次調査の方法

一次調査では、ある程度の腰掛け座位が可能で、立位時には足底に荷重をかけることができ、立ち上がり動作及び立位での方向転換に介護を必要とする能力の人を想定し、各施設のリハ専門職が機器を用いて介護負担軽減を図りたい対象者を抽出しました。

各施設のリハ専門職が、対象者ごとに年齢、性別、身長、体重、身体寸法、身体の基本能力、日常の移乗手段、車椅子座位の状況等についての基礎評価用紙を記録し、機器の利用による装着、立ち上がり、着座状況など一連の移乗動作について検証を行い(図2)、機器検証を実施したリハ専門職へのアンケート調査を行いました。



図1 施設での導入検討状況



図2 一次調査の状況

表1 機器使用対象者の概要と身体特性

施設概要	対象者	性別	年齢	現在の移乗		身体寸法		腰かけ座位 骨盤の傾き 後傾→0 中間→1 前傾→2	基本能力			コミュニケーション (意思疎通) 問題なし→0 なんとか可能→1 できない→2	機器使用状況 問題無 ○ 問題はあるが 実用レベル →▲ 利用できない →×	
				介助方法 立位→0 座位→1 並行→2	介助人数 (人)	身長 (cm)	体重 (kg)		腰かけ 座位	立ち上がり 動作	立位保持			
														問題無→0 不十分→1 できない→2
高齢者施設	デイサービス併設老健 と健 認知症	F-1	女	87	0	1	135	48.5	0	1	1	1	1	×
		F-2	男	76	0	1	158	53	0	1	2	2	0	▲
		F-3	女	81	0	1	154	51.7	0	0	1・2	1・2	0	▲
		F-4	男	65	0	1	160	50	0	0	2	1	1	▲
		F-5	女	76	2	1	154	50.6	1	0	2	2	1	×
		F-6	女	78	0	1	148	34	0	0	1	1	0	×
		F-7	女		0・1・2	1~2	152	57	0・1	1	2	2	2	×
	老人分野の老健	KN-1	男	90	0	1	157	51.3	0	1	1	1	1	▲
		KN-2	男	86	0	1~2	157	50.4	0	1	2	2	2	×
		N-1	男	94	0	1	152	47.5	0	1	2	2	1~2	▲
		N-2	女	92	0	1	140	49	0	1	2	2	2	×
		N-3	女	90	0	1	131	42.7	0	0	2	2	1~2	×
		N-4	女	89	0	1	146	54.7	0	0	2	2	0	×
		N-5	女	98	1	1	136	38.1	0	1	2	2	2	×
障害者施設	生活介護	K-1	女	57	0	1	152	56	0	1	1	1	0	×
		K-2	女	59	0	1	155	42	0	0	1	1	0	▲
		K-3	女	34	0	1	156	57	0	1	1	1	0	▲
		K-4	女	71	0	1	148	56	0	1	2	2	0	×
		K-5	男	49	自立	0	177	63	1	0	1	1	0	▲
		K-6	男	46	0	1	171	71	0	1	1	1	0	▲
	訪問リハ	S-1	男	58	1	0	182		0	0	1	1	0	×
		S-2	男	46	1	1	164	57	1	1	2	2	0	▲
		S-3	女	40	1	1	160		0	2	2	2	0	▲
		S-4	女	77	1	1	148	48.8	0	1	2	2	1	▲

2. 二次調査結果

①介護現場での導入調査結果

訪問看護ステーションを除く4事業所から現状の機器で利用可能な対象者を各1名ずつ選出し、介護現場での導入検証を実施しました。今回の対象者は表1のF-2、KN-1、N-1、K-3の4名ですが、対象者に対して常に決まった介護職員が移乗介助を行うわけではないため、機器導入にあたりリハ専門職が介護職員を集めて機器の使い方等の説明を数回実施していました。

介護職員には対象者の24時間の移乗動作を全て記録してもらい、人的介助で行う場合と機器を使用する場合とで移乗の目的や導入後の時間的経過等について調査、分析を行いました。測定期間における各対象者の移乗回数、その中で人的介助と機器利用による介助の回数は図4に示します。その結果、全体の移乗介助のうち約40%が機器を利用していました。F-2とK-3の入居施設では、以前から介護職員が移乗関係の福祉用具を利用していることもあり、導入後3週目と9週目の機器利用頻度はあまり変化がなく、福祉用具を全く利用したことがないN-1の入居施設では、図5に示すとおり導入後3週目と9週目では機器利用に加えて移乗回数自体が増加

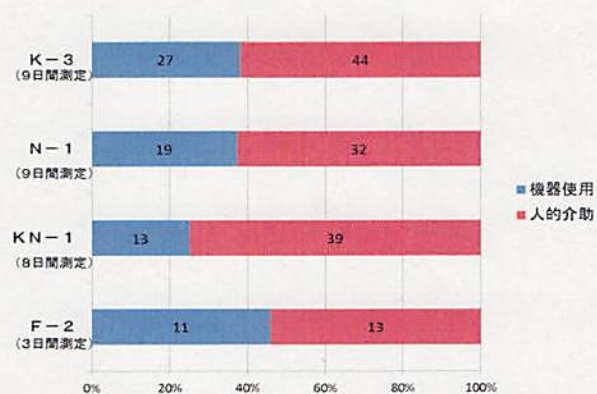


図4 各対象者別の機器利用と人的介助の割合

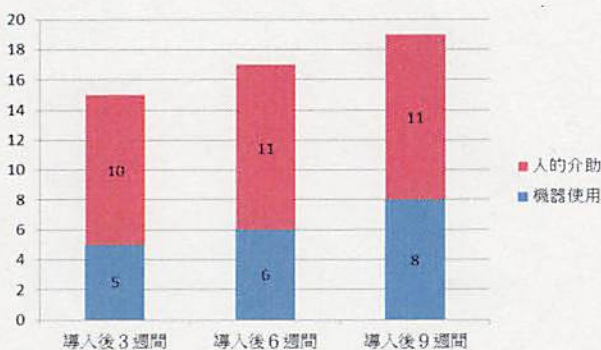


図5 N-1施設導入後の移乗回数の変化

しています。

また、機器利用が多かったF-2とK-3は図6に示すとおりトイレでの利用が多く、K-3の導入9週目では、トイレに機器を常設し、車椅子と便器の移乗に多く利用していました。

②介護職員へのアンケート結果

今回、実証検証を行った高齢者・障害者施設4カ所の介護職員62名に対して機器利用に関するアンケート調査を行いました。介護職員の平均年齢は38.9歳、平均経験年数は9年でした。

図7に示すように介護職員の31%が常に腰痛を感じており、時々痛みを感じる方を合わせると87%が腰痛に悩まされていました。また、現在の介護現場における移乗用具利用の有無については図8に、機器の有効性については図9に示します。移乗用具を時々利用している(56%)F-2の入居施設と、常に利用と時々利用している(93%)K-3の入居施設は、あまり移乗用具を利用したことがないKN-1とN-1の入居施設に比べて機器の有効性についての認識が高く、有効または少し改善が必要と答えた方を合わせると90%以上でした。機器の継続利用による変化については、図10に示すとおりF-2とK-3の入居施設では全ての職員が使いやすくなった、人的介助よりも良くなったと回答していました。

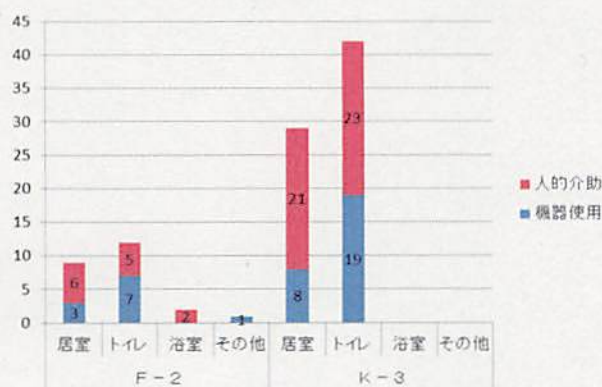


図6 F-2とK-3の目的別移乗回数

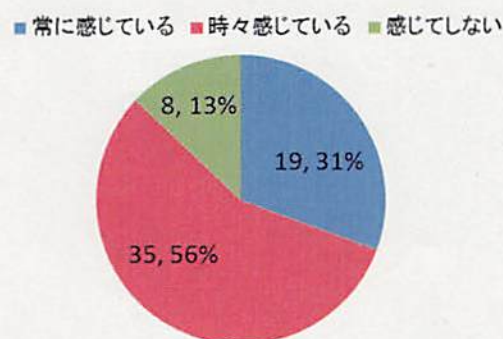


図7 介護職員の腰痛の状況

IV 検証チームの総評

今回のロボット介護機器「i-PAL」導入検証については、利用者側の立場で機器が持つ用途と日常生活で必要とする対象者との適合を明確にするために一次調査を実施しました。その上で、機器の利用が安全で有効であると判断した対象者に対して介護現場で二次調査を実施しました。

一次調査では、利用者の身体特性に適合した機器の改善提案を行うことで、更に多くの高齢者や障害者が利用できる機器への改善が期待できました。機器開発を行う場合、その機器を本来利用したい方々の身体特性と機器の適合を図ることが大変重要です。その開発プロセスを丁寧に行うことで、より多くの方々に利用しやすく必要とされる機器の開発につながります。そのためには、人の身体特性と生活環境を把握して生活支援を行うリハ専門職等と開発者が密に連携しながら介護機器の開発及び導入に向けた一連の取り組みが重要と感じました(図11)。

二次調査では、普段から移乗用具等を利用しているかどうかで、新しい機器の導入に関する意識の違いが大きくなりました。また、介護現場では一人の対象者に多くの介護職が関わり、介助方法も多様なため、機器の利用により一定の標



図8 移乗用具の利用状況

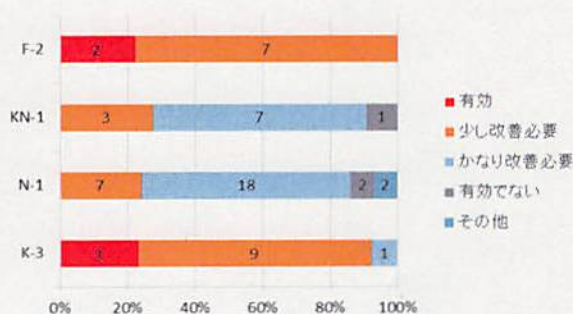


図9 機器の有効性について

<資料>

準化が図られるメリットがある一方で、機器の設置場所や運搬等の課題も多く、ほぼトイレ環境や居室等での専用器としての使い方になってしまう傾向がみられました。

介護現場での腰痛に対する課題は大きく、人的介助の負担軽減を図るためには、今後さらに介護現場での移乗用具の導入が不可欠になると思われるため、介護現場への意識改革の取り組みも重要と感じました。

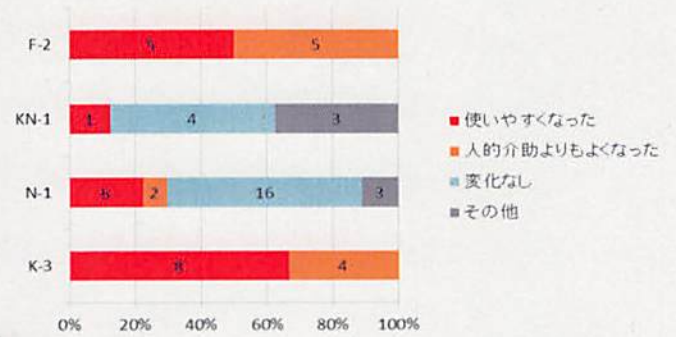


図10 機器の継続利用による変化



図11 検証チームのプロジェクト会議

3 技術普及・啓発

(1) 他部局との連携

- ・身体障害者更生相談所との技術連携・支援（健康福祉部）
- ・バリアフリー社会推進賞の募集・審査（健康福祉部）
- ・県立中央病院建設のためのユニバーサルデザイン支援（健康福祉部）
- ・学校における福祉用具及びバリアフリー環境等に関する情報提供（教育委員会）
- ・医商工連携促進事業における福祉用具のニーズに関する情報提供（商工労働部）

(2) 他機関委員会等への参画

- ・バリアフリー北陸信越ブロック地域連絡会（北陸信越運輸局）

(3) 展示会への出展

- ・県主催の障害者ふれあいフェスティバル及び介護・福祉総合フェアで、最新の福祉用具及びバリアフリー推進工房の活動を紹介（健康福祉部）

4 福祉用具の貸出 970件

関係機関からの依頼により、試用・評価用の福祉用具を貸出している。

分類	用具	件数	小計
装具	BFO・スプリングバランス・スプリント	32	95
パーソナルケア	トイレ・入浴・更衣・整容	63	
移動・移乗用具	杖・歩行器	12	387
	車いす	88	
	電動車いす	56	
	クッション	105	
	車いす部品	81	
	リフト・吊り具	15	
	移乗用具・他	30	
食事・炊事・操作用具	食事・炊事用具	104	153
	操作用具	49	
家具・建具・建築設備	座位保持装置・いす	132	147
	机	12	
	スロープ・手すり・他	3	
コミュニケーション	スイッチ・入力装置	79	149
	意思伝達装置・会話補助装置	28	
	呼び出しベル・環境制御装置	22	
	固定・調整用具	20	
その他	スポーツ・レクレーション用具	37	39
	訓練用具・他	2	
合計			970

Ⅲ 難病相談・支援センターの状況

1 難病相談

人 数	電 話	面 接	うち		メール FAX はがき	その他 (ケー ス会議 等)	家 庭 訪 問	合 計 (人)
			うち 専門医	うち リハビ リ専門 職				
	446	150	11	49	60	8	47	711

2 患者交流会

回 数	参加人数 (うち難病患者)
24回	137 (90) 人

3 研修会

(1) 難病研修会 (対象：難病患者、家族)

実施年月日	内 容 及 び 講 師	会 場	参加 者数
H26. 8. 5(火) 13:30～15:30	就労相談・交流会 「難病・高次脳機能障害のある方の就労について」 講師：石川障害者職業センター 大工 智彦	リハビリテー ションセンタ ー	17
H26. 10. 3(金) 14:00～16:00	医療講演会・相談会 「多発性硬化症について」 講師：国立病院機構医王病院 診療部長 高橋 和也	〃	17
H26. 10. 15(水) 14:00～16:00	医療講演会・相談会 「拡張型心筋症について」 講師：金沢大学附属病院循環器内科 助教 今野 哲雄	〃	5
H26. 10. 25(土) 13:30～15:30	セルフマネジメント研修 「心とからだに笑顔を与える音楽の力」 講師：音楽療法士 太郎田 真理	〃	82
H27. 3. 9(月) 13:30～16:00	ピアサポート研修会 「ピアサポートについて～傾聴・ピアによるサポート とは～」 講師：富山大学人文学部 准教授 伊藤 智樹	〃	24
H27. 3. 14(土) 10:00～12:00	セルフマネジメント研修「オカリナ教室」 講師：オカリナ講師 齋藤 昌子	〃	7
合 計			152

(2) 難病研修会 (対象: 難病患者の支援関係者)

実施年月日	内容及び講師	会場	参加者数
H26. 7. 2(水) 16:20~17:50	「難病患者体験談」 講師: 石川県パーキンソン病友の会	県立看護大学	86
H26. 7. 10(木) 14:30~16:00	「難病患者体験談」 講師: いしかわSCD友の会 副会長 上田 啓司	国際医療福祉 専門学校七尾 校	142
H26. 7. 4(金) H26. 7. 18(金) 9:30~16:30	難病支援のための介護支援専門員研修 「神経難病の理解」 講師: 独立行政法人国立病院機構医王病院 医師 石田 千穂 「特定疾患の支援に関して」 講師: リハビリテーションセンター 医師 岸谷 都 「難病相談・支援センターについて」 「生活を支える福祉用具を用いた技術支援」 講師: リハビリテーションセンター職員 「グループワーク」 講師: 独立行政法人国立病院機構医王病院等 ソーシャルワーカー 中本 富美 (7/4, 18) 小田 輝実 (7/4) 吉田 力 (7/18)	石川県社会福 祉会館	247
H26. 11. 4(火) 10:30~11:00	平成 26 年度石川県障害者相談支援従事者研修 (現任 研修) 講師: リハビリテーションセンター職員	県庁 1105 会議 室	39
H26. 12. 5(金) 13:00~14:30	「難病患者体験談」 講師: J-FOP 患者家族会 北岡 幸美 (FOP: 進行性骨化性線維異形成症)	金沢大学鶴間 キャンパス	91
H27. 1. 9(金) 13:00~17:15	難病ホームヘルパー養成研修 「石川県の難病対策」 講師: 県健康推進課職員 「難病相談・支援センターについて」 講師: 難病相談・支援センター職員 「神経難病の理解」 講師: 独立行政法人国立病院機構医王病院 医師 池田 芳久 「難病患者さんの口腔ケアと看護」 講師: 独立行政法人国立病院機構医王病院 看護師 浅井 瑤子 「難病患者さんと家族への精神的支援」 講師: 独立行政法人国立病院機構医王病院 ソーシャルワーカー 中本 富美	リハビリテー ションセンタ ー	27
H27. 1. 15(木) 13:30~14:30	「難病患者体験談」 講師: 日本リウマチ友の会石川支部 支部長 高谷 正子 会 員 近岡 みどり、出水 陽子	〃	40
合 計			672

(3) ボランティア育成研修会

実施年月日	内容及び講師	会場	参加者数
H26. 4. 27(日) 9:00~16:30	「脊髄小脳変性症、多系統萎縮症の方への対応について」 講師：難病相談・支援センター職員	北潟湖レイクサイド湖畔荘	5
H26. 10. 25(土) 12:30~16:30	(セルフマネジメント研修) 「難病のある方への対応について」 講師：難病相談・支援センター職員	リハビリテーションセンター	3
合計			8

4 連携会議

実施年月日	連絡会テーマ	会場	参加者数
H26. 5. 22(木) 13:30~15:30	難病患者団体等連絡会	リハビリテーションセンター	17
H27. 3. 23(月) 13:30~15:30	〃	〃	9
合計			26

5 患者会支援

実施年月日	内容	会場	参加者数
H26. 4. 5(土) 9:30~12:30	いしかわSCD友の会総会	リハビリテーションセンター	30
H26. 4. 26(土) 10:00~12:30	第3回パーキンソン病体操教室 in KMC	金沢医療センター	100
H26. 5. 10(土) 13:30~17:15	石川県OPLL友の会第13回定期総会・医療講演会・交流会	近江町交流プラザ	107
H26. 5. 25(日) 13:30~14:30	第9回北陸膠原病ネットワークサポーター会議	ホテル日航金沢	14
H26. 6. 1(日) 13:00~15:30	公益社団法人日本リウマチ友の会石川支部第43回支部大会	松ヶ枝福祉館	50
H26. 8. 9(土) 10:00~12:30	第4回パーキンソン病体操教室 in KMC	金沢医療センター	65
H26. 8. 29(金) 14:00~16:00	後縦靭帯骨化症患者・家族のつどい 講師：リハビリテーションセンター職員	南加賀保健福祉センター	18
H26. 9. 6(土) 14:00~16:00	金沢市講演会・療養相談会「神経難病」 講師：音楽工房ゆら 音楽療法士 塩崎 真希子 リハビリテーションセンター職員	金沢駅西健康ホールすこやか	35
H26. 9. 10(水) 13:00~15:00	パーキンソン病についての講演会及び患者・家族交流会 講師：リハビリテーションセンター職員	能登中部保健福祉センター	11
H26. 9. 19(金) 13:00~15:00	パーキンソン病患者・家族のつどい 講師：リハビリテーションセンター職員	南加賀保健福祉センター	33

実施年月日	内 容	会 場	参加者数
H26. 9. 26(金) 13:30~15:30	パーキンソン病相談会 講師：リハビリテーションセンター職員	能登空港ターミナルビル4階	4
H26. 9. 26(金) 13:30~16:00	後縦靭帯骨化症についての講演会および患者・家族交流会 講師：リハビリテーションセンター職員	能登中部保健福祉センター	24
H26. 9. 26(金) 14:00~16:00	石川中央保健福祉センター「ほっとあんしんの家の見学・福祉用具説明会」 講師：リハビリテーションセンター職員	ほっとあんしんの家	10
H26. 11. 9(日) 13:00~16:30	第9回北陸膠原病支援ネットワーク総会	ホテル日航金沢	90
H26. 11. 9(日) 13:30~16:30	一般社団法人全国パーキンソン病友の会石川県支部創立15周年記念講演会	金沢都ホテル	180
合 計			771

IV 高次脳機能障害相談・支援センターの状況

1 高次脳機能障害相談

交通事故や脳血管障害等で脳に損傷を負ったため注意障害、記憶障害等の症状により社会適応が困難な方に対して生活上の悩み等に関する相談に応じ、高次脳機能障害者、家族の不安の軽減を図る。

	電話	面接	FAX等	家庭訪問	合計
人数	434	170	106	63	773

2 生活支援教室

当事者同士の交流や活動を通じて障害の自己認識を深め、また、障害を補うための代替手段を獲得することで、高次脳機能障害者の地域での安定した生活への移行を図る

実施年月日	会場	内容	回数	参加人数 (のべ人数)
毎週水曜日	リハビリテーションセンター、ほっとあんしんの家	スピーチ、レクリエーション等	50	8 (297)

3 家族教室

高次脳機能障害は、頭部外傷、脳血管障害等による脳損傷の後遺症として、記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害などの認知障害が生じ、日常生活・社会生活への適応が困難となる障害である。特に生活場面での障害は、家族への影響も大きく、家族が正しく理解して対応することの難しい場合が多い。

高次脳機能障害者家族教室は、家族が高次脳機能障害を正しく理解することや、家族同士が交流することを目的として実施する。

実施年月日	内容及び講師	会場	参加者数
H26. 7. 7(月) 13:30～15:30	講義「高次脳機能障害の理解と対応について」 講師：リハビリテーションセンター職員 「使える社会資源について」 講師：県立中央病院 ソーシャルワーカー 永田 若菜 自動車事故対策機構(NASVA)石川支所 西山 暢彦 「家族会紹介」 講師：高次脳機能障害患者と家族の会つばさ 向江 顕勝 交流会	リハビリテーションセンター	23
H26. 11. 1(土) 13:00～16:30	講義「快適な生活を送るために ～福祉用具と環境の工夫を取り入れて～」 講師：リハビリテーションセンター職員 交流会	〃	23

実施年月日	内容及び講師	会場	参加者数
H26. 12. 8(月) 13:30～15:30	講義「高次脳機能障害の理解と対応について」 講師：リハビリテーションセンター職員 「使える社会資源について」 講師：県立中央病院 ソーシャルワーカー 寺島 加奈子 自動車事故対策機構(NASVA)石川支所 西山 暢彦 「家族会紹介」 講師：高次脳機能障害患者と家族の会つばさ 上口 由美子 交流会	リハビリテーションセンター	20
H26. 12. 16(火) 13:00～15:00	高次脳機能障害者の家族交流会	〃	6
合計			72

4 高次脳機能障害研修会

高次脳機能障害について理解を深め知識の普及を図る。

実施年月日	内容及び講師	会場	参加者数
H26. 6. 9(月) 16:00～17:30	講義「高次脳機能障害の集団における支援の実践」 講師：リハビリテーションセンター職員	栗津神経サナトリウム	30
H26. 8. 5(火) 13:30～15:30	講義「難病・高次脳機能障害のある方の就労について」 講師：石川障害者職業センター 大工 智彦	リハビリテーションセンター	17
H26. 8. 23(土) 14:00～16:00	講義「生活の質の向上を見据えた記憶障害へのアプローチ」 講師：社会医療法人財団慈泉会 相澤病院脳卒中・脳神経リハセンター 作業療法士 並木 幸司	〃	69
H26. 8. 28(木) 10:00～11:30	高次脳機能障害に関する研修会 講師：リハビリテーションセンター職員	錦城学園	26
H26. 11. 4(火) 10:30～11:00	講義「地域での取り組みについて」 講師：リハビリテーションセンター職員	県庁	40
H26. 12. 6(土) 13:00～16:30	講義「高次脳機能障害者の生活の中での対応 ～生活版ジョブコーチについて～」 講師：岐阜医療科学大学保健科学部看護学科 教授 阿部 順子 講義「高次脳機能障害者の社会復帰に向けて ～病院と地域との連携～」 講師：金沢医科大学病院 リハビリテーション医学科 教授 影近 謙治	白山市福祉ふれあいセンター	128
合計			310

5 高次脳機能障害支援関係者連絡会

高次脳機能障害者の社会参加の促進に向けた各機関の役割を理解し、支援上の課題や連携について検討することで関係機関のネットワークを強化する。

実施年月日	内容及び講師	会場	参加者数
H27. 2. 17(火) 14:00~16:30	講演「高次脳機能障害と発達障害の違いと共通点」 講師：千葉県千葉リハビリテーションセンター 高次脳機能障害支援アドバイザー 太田 令子	リハビリテーションセンター	72
合計			72

V リハビリテーション技術支援ネットワーク構築事業

国の障害者総合支援法や県の地域医療再生計画により、高齢者や障害者の自立支援が重要視される中、平成24年度に実施したリハビリテーション機能強化検討会及びアンケート等の結果を踏まえ、身近な地域で福祉用具や住宅改修等によるリハビリテーション技術支援体制の充実を図ることにより、高齢者や障害者の自立した在宅生活や積極的な社会参加を促進する。

1 障害(児)者の自立に向けた支援機関連携モデル事業

地域におけるリハビリテーション技術支援の活性化や効率化を図るため、市町の基幹相談支援センター等を窓口とした支援機関の連携によるモデル事業を実施し、ケースに関わる支援者が一堂に会した合同ケース検討会等を通じて各地域における支援者同士のネットワークづくり及び適切なリハビリテーション技術支援が提供できる相談支援体制の充実を目指す。

(1) モデル事業の実施：4地域（七尾・中能登町、かほく市、津幡町、小松市）

① 七尾市・中能登町（委託先：さいこうえんの障害者生活支援センター）

実施事項	内 容
リハビリテーション技術支援に関する検討会等の実施	<p>(1) ケース支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 難病（SCD）：医療機関から宅復帰に向けた支援 ・ 脳性麻痺：在宅における移乗機器（リフト）の支援 ・ 筋ジストロフィー：在宅支援 ・ 脊髄損傷と下肢切断：車椅子の検討と生活支援 ・ 二分脊椎：在宅支援 <p>(2) 合同ケース検討会の開催（参加者：障害者相談支援専門員、七尾市職員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回合同検討会（H26.9.2） 上記のケース2事例に関する検討 ・ 第2回合同検討会（H26.12.15） 上記のケース4事例に関する検討 <p>(3) リハビリテーションセンター学習会・視察（H26.8.5） 当センターの役割と連携についての学習会及び福祉用具、「ほっとあんしんの家」の見学を実施 参加者：障害者相談支援専門員、七尾市職員</p>
リハビリテーション技術支援の啓発・普及	<p>(1) 特別講演（H27.2.20～21） 演 題：「リハビリテーションの視点で捉える利用者の全体像」 講 師：東京ふれあい医療生活協同組合 梶原診療所 在宅総合ケアセンター 作業療法士 大越 満 氏 参加者：障害者相談員、ケアマネ等</p> <p>(2) 福祉用具の啓発事業（H26.10.11） 「七尾市民健康福祉まつり社会福祉大会」において、市民に対して福祉用具の展示等を実施</p>
その他	<p>先進地視察（H26.11.20） 参加者：障害者相談員5名、市職員2名、当センター職員1名 視察先：愛知県半田市障害者相談支援センター（基幹相談支援センター） 日本福祉大学 福祉テクノロジーセンター</p>

② かほく市

実施事項	内 容
リハビリテーション技術支援に関する検討会等の実施	<p>(1) ケース支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筋ジストロフィー：一般就労と一人暮らしに向けての支援 ・脳性麻痺：移動機器（電動車椅子）の導入支援 ・脳性麻痺：自立度の高い在宅生活支援 ・重度身体障害児：人工呼吸器搭載バギー車の支援 <p>(2) 勉強会の開催（参加者：障害者相談員、福祉施設職員、介護支援専門員等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義「障害のある方の自立を踏まえた支援計画の作成手法」（H26. 11. 18） 他職種連携の重要性とコーディネートの視点を学ぶ 講師：ケアマネウイズだいこんの花 社会福祉士 主任介護支援専門員 小島 操 氏 ・実技演習（H27. 2. 16） 自立度を高め、介護負担の軽減を図るための移乗動作の実技を学ぶ 講師：金沢福祉用具情報プラザ 安田 秀一 氏 ほか
リハビリテーション技術支援の啓発・普及	<p>特別講演会（参加者：市民）</p> <p>演題：「自分らしい暮らしを実現するためのリハビリテーション」</p> <p>講師：日本作業療法士協会課長 兵庫県立総合リハビリテーション中央病院 リハビリ療法部 部長 中村 春基 氏</p>

③ 津幡町（委託先：地域包括支援センターリハビリテーション連絡会）

実施事項	内 容
リハビリテーション技術支援に関する検討会等の実施	<p>リハ技術支援ケース検討会（計3回実施）</p> <p>ファシリテーター兼アドバイザー：石川県言語聴覚士会 副会長 徳田 紀子 氏</p> <p>(1) 第1回検討会（H26. 12. 3） （参加者：津幡町リハ連絡会メンバー、ケース担当の事業所職員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICFの考え方からみたケース検討（1回目） ・パーキンソン病：在宅生活支援の内容検討 <p>(2) 第2回検討会（H27. 2. 25） （参加者：津幡町リハ連絡会メンバー、ケース担当の事業所職員、病院の医師・リハビリテーション職）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICFの考え方からみたケース検討（2回目） ・軽度脳卒中患者の支援について考える（急性期・回復期・生活期の流れ方） <p>(3) 第3回検討会（H27. 3. 25） （参加者：津幡町リハ連絡会メンバー、ケース担当の事業所職員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICFの考え方からみたケース検討（3回目） ・自動車運転とい屋外移動について考える
リハビリテーション技術支援の啓発・普及	<p>特別講演（H27. 3. 2）</p> <p>演題：「リハビリテーション専門職と他職種との連携について」</p> <p>講師：（有）ふらむはあとリハビリねっと（りり・フィジオグループ） 理学療法士 安倍 浩之 氏</p>

④ 小松市 (小松市障害者自立支援協議会事務局 (こまつ障害者総合相談支援センター))

実施事項	内 容
リハビリテーション技術支援に関する検討会等の実施	<p>(1) リハビリテーションセンターとの事例検討会 (H27. 1. 20) (参加者: 障害者相談専門員、小松市職員) ・ 頸髄損傷: 電動車椅子の支援 ・ 脳血管障害: 車椅子の支援</p> <p>(2) 医療機関との連携学習会 (参加者: やわたメディカルセンター職員、障害者相談員) ・ 第1回「医療の現状と連携のあり方について」(H27. 2. 19) アドバイザー: やわたメディカルセンター MSW 林 氏 ・ 第2回「訪問リハからみた地域生活の課題について(事例検討)」(H27. 3. 25) アドバイザー: やわたメディカルセンター MSW 林 氏、 訪問リハスタッフ3名</p> <p>(3) リハビリテーションセンター学習会・視察 (H26. 8. 5) 当センターの役割と連携についての学習会及び福祉用具、「ほっとあんしんの家」の見学を実施 参加者: 障害者相談支援専門員、小松市職員</p>
リハビリテーション技術支援の啓発・普及	<p>(1) 特別講演会 (H27. 3. 19) 演 題: 「リハビリテーションにおける地域支援ネットワークを考える」 講 師: やわたメディカルセンター 医師 西村 一志 氏 参加者: 福祉サービス事業所、リハ専門職、特別支援学校、ケアマネ等</p> <p>(2) 福祉用具の啓発事業 (H27. 3. 29) 「小松市民障害者ふれあいフェスティバル」において、市民に対して福祉用具の展示等を実施</p>
その他	<p>先進地視察 (H27. 3. 20～21) 参加者: 障害者相談員、市職員等 視察先: 長野県の先進施設 (基幹相談支援センター等)</p>

2 補装具の適合・供給人材スキルアップ事業

(1) 自立支援型プランニング実践研修

障害者の相談支援専門員や介護支援専門員(ケアマネージャー)等を対象に、自立支援型サービスの視点を重視したプランニング実践研修(3回1コース)を実施し、地域での確なリハビリテーション技術支援のコーディネートができる人材を育成する。

(平成26年度修了証取得者: 21名)

実施年月日	内容及び講師	会 場	参加者数
第1回 H26. 10. 8(水) 10:00～15:00	<p>① 「一人一人の個性を大切にしたい自立度の高い生活の実現をめざして」 講師: NPOバーチャルメディア工房 理事長 上村 数洋 金沢美術工芸大学 名誉教授 荒井 利春</p> <p>② 「自立を視点においたプランニング実践とは」 講師: 生活支援センターたいよう 相談支援専門員 東藤 歩 芳珠記念病院 作業療法士 合歓垣 紗耶香 (株)トミキライフケア 福祉用具相談専門員 高野 剛</p>	南加賀保健福祉センター	19人

実施年月日	内容及び講師	会場	参加者数
第2回 H26. 11. 19(水) 9:30～15:30	①「自立を視点においたアセスメントへの取り組みポイント」 講師：ケアマネウイズだいこんの花 社会福祉士・主任介護支援専門員 小島 操 氏 ②「生活の中で活用する福祉用具の考え方」 講師：リハビリテーションセンター職員	〃	21人
第3回 H26. 12. 10(水) 13:00～16:00	「事例演習」 講師：ケアマネウイズだいこんの花 社会福祉士・主任介護支援専門員 小島 操 氏	〃	21
合計			61

(2) 補装具適合・製作等実践的技術研修 (H26年度テーマ「車椅子」)

リハビリテーション専門職や福祉用具専門相談員等を対象に電動車椅子、車椅子、座位保持装置、重度障害者用意思伝達装置等の補装具に関する適合・選定・改良・製作等の実践的セミナー(6回1コース)を実施し、地域で補装具等を活用したリハビリテーション技術支援を行うことができる人材を育成する。(平成26年度修了証取得者：40名)

実施年月日	内容及び講師	会場	参加者数
第1回 H26. 7. 26(土) 14:00～17:00	講義 「ニーズの把握と支援のすすめ方」 講師：神奈川県立保健福祉大学 リハビリテーション学 科 作業療法学専攻 玉垣 努 氏	リハビリ テーショ ンセンタ ー	72人
第2回 H26. 9. 13(土) 10:00～13:00	講義・演習 「座位姿勢の考え方」 講師：永生クリニック 作業療法士 岩谷 清一 氏	〃	77
第3回 H26. 9. 13(土) 14:00～17:00	講義・演習 「移乗・移動の考え方」 講師：神奈川総合リハビリテーションセンター 理学療法士 平田 学 氏	〃	72
第4回 H26. 10. 18(土) 14:00～17:00	講義・演習 「身体特性からみた車椅子の適合」 講師：リハビリテーションセンター職員	〃	71
第5回 H26. 12. 20(土) 10:00～15:00	講義・演習 ①「補装具制度について」 講師：更正相談所職員 ②「具体的な車椅子プランニングの実践」 講師：リハビリテーションセンター職員	〃	62
第6回 H27. 1. 17(土) 10:00～15:00	演習 「事例検討」 講師：リハビリテーションセンター職員	〃	56
補講 H27. 3. 1(土) 13:30～16:30	欠席回の講義・演習内容に関する説明及び補講内容を踏まえた事例検討 講師：リハビリテーションセンター職員	〃	10
合計			420

VI ほっとあんしんの家利用状況

		月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
利 用 総 数	平成22年度	件数	18	24	21	24	30	24	21	18	24	18	30	20	272	
		人数	102	408	335	191	218	278	222	173	137	79	404	265	2,812	
	平成23年度	件数	21	25	23	25	19	24	25	20	14	14	22	15	247	
		人数	144	298	470	172	125	344	246	215	98	93	491	111	2,807	
	平成24年度	件数	21	18	28	28	21	20	27	20	9	9	18	14	233	
		人数	104	338	436	197	131	302	447	285	55	57	421	98	2,871	
	平成25年度	件数	18	33	35	32	29	21	3	0	0	0	33	32	236	
		人数	117	406	385	336	213	150	13	0	0	0	762	194	2,576	
	平成26年度	件数	31	37	47	41	37	25	28	33	15	15	20	16	345	
		人数	154	248	516	325	257	294	282	407	125	98	517	99	3,322	
	一 般	平成22年度	件数	6	9	3	8	10	10	9	7	12	3	7	4	88
			人数	16	120	40	54	50	69	70	55	31	7	21	8	541
内県政バス		件数	-	3	1	1	1	1	1	1	-	-	-	-	9	
		人数	-	108	37	39	35	41	42	37	-	-	-	-	339	
平成23年度		件数	7	6	8	10	2	9	8	5	3	2	1	5	66	
		人数	16	13	167	49	3	60	89	9	6	2	1	7	422	
内県政バス		件数	-	0	3	0	0	1	2	0	-	-	-	-	6	
		人数	-	0	119	0	0	43	58	0	-	-	-	-	220	
平成24年度		件数	10	6	10	10	4	7	9	6	2	1	1	5	71	
		人数	13	54	115	63	4	47	195	102	3	2	2	8	608	
内県政バス		件数	-	1	3	1	0	0	5	1	-	-	-	-	11	
		人数	-	44	96	29	0	0	189	47	-	-	-	-	405	
平成25年度		件数	3	8	19	12	8	5	0	0	0	0	15	14	84	
		人数	10	81	115	95	15	10	0	0	0	0	46	57	429	
内県政バス		件数	-	1	1	1	0	0	0	0	-	-	-	-	3	
		人数	-	52	38	32	0	0	0	0	-	-	-	-	122	
平成26年度	件数	14	9	18	10	7	6	9	10	2	2	3	5	95		
	人数	48	58	187	127	41	33	68	62	8	8	4	9	653		
内県政バス	件数	-	1	3	3	0	0	1	0	-	-	-	-	8		
	人数	-	43	105	114	0	0	37	0	-	-	-	-	299		
研 修 教 育	平成22年度	件数	1	4	5	2	10	3	2	2	2	1	5	3	40	
		人数	2	203	181	18	86	119	95	44	15	5	283	140	1,191	
	平成23年度	件数	3	4	5	6	6	5	7	5	2	3	11	1	58	
		人数	45	192	211	48	42	213	76	136	24	36	424	38	1,485	
	平成24年度	件数	2	4	10	5	7	6	5	7	2	1	6	2	57	
		人数	25	223	262	55	83	197	172	139	13	14	358	57	1,598	
	平成25年度	件数	1	5	7	8	8	3	0	0	0	0	11	5	48	
		人数	39	218	212	162	126	86	0	0	0	0	696	78	1,617	
	平成26年度	件数	3	5	13	9	14	7	5	9	2	3	9	3	82	
		人数	28	97	267	127	147	218	154	297	77	54	468	53	1,987	
	相 談	平成22年度	件数	11	8	9	8	9	11	8	7	8	11	14	11	115
			人数	84	78	96	86	81	90	51	71	88	62	95	113	995
平成23年度		件数	10	12	10	9	10	9	10	9	8	6	8	9	110	
		人数	82	82	92	75	79	66	81	68	66	44	63	66	864	
平成24年度		件数	9	8	8	13	9	7	13	6	5	7	7	5	97	
		人数	66	61	59	79	43	58	80	42	39	41	48	27	643	
平成25年度		件数	8	9	7	6	8	8	3	0	0	0	6	8	63	
		人数	44	58	54	44	57	42	13	0	0	0	18	34	364	
平成26年度		件数	11	15	13	19	13	8	12	14	10	8	8	8	139	
		人数	72	65	57	66	60	26	52	48	34	32	45	37	594	
研 究 開 発		平成22年度	件数	0	3	4	6	1	0	2	2	2	3	4	2	29
			人数	0	7	18	33	1	0	6	3	3	5	5	4	85
	平成23年度	件数	1	3	0	0	1	1	0	1	1	3	2	0	13	
		人数	1	11	0	0	1	5	0	2	2	11	3	0	36	
	平成24年度	件数	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	4	2	8	
		人数	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	13	6	22	
	平成25年度	件数	6	11	2	6	5	5	0	0	0	0	1	5	41	
		人数	24	49	4	35	15	12	0	0	0	0	2	25	166	
	平成26年度	件数	3	8	3	3	3	4	2	0	1	2	0	0	29	
		人数	6	28	5	5	9	17	8	0	6	4	0	0	88	

※平成25年度は、改修工事のため平成25年10月11日（金）～平成26年1月31日（金）まで臨時休館